第２部　めざすべき都市像

Ⅰ　めざすべき都市像

Ⅰ めざすべき都市像

基本的な考え方

水と緑と創造のまち　生き活き・さいわい

『環境共生のまちづくり』

1　「環境と共に生きる」まちづくり

2　幸区の特性を活かした「地域社会と共に生きる」まちづくり

3　コミュニティを大切にした「人と人が共に生きる」まちづくり

『安全な生き活きまちづくり』

4　安全で安心して暮らせるまちづくり

5　多様な交流、にぎわいのあるまちづくり

6　新しい産業を創造するまちづくり

＜背景・視点＞

・幸区には、北に多摩川、南に鶴見川、西に矢上川が流れており、かつては、区内の低地部に水田が多く存在し、二ヶ領用水の豊かな水路網があり、身近に自然豊かな水辺が多くありました。
・近年では街なかの緑や水辺の減少、エネルギー資源の減少、地球温暖化やヒートアイランド現象などの地球環境の変化、地震や台風などによる自然災害の発生、少子高齢化の進行など、区民の生活を取り巻く環境は大きく変化してきています。
・これまでの歴史的経緯の中で育まれた人々の生活や産業、文化といった幸区の特性を大切にするとともに、現在のまちの課題を見据えた上で、これからの時代の動きをとらえることが大切になってきます。
・20 年後のまちの姿を描く上で、次のように時代の動きをとらえ、まちづくりの視点を整理した上で、「環境共生のまちづくり」「安全な生き活きまちづくり」をめざします。

時代の動き	幸区のまちづくりの視点
● 自然環境への配慮へ ・温室効果ガスの削減により、地球温暖化の緩和へ ・都市緑化の推進により、ヒートアイランド現象の緩和へ ・生態系の保全へ ・資源循環型社会への転換、省資源化へ	①自然環境に配慮した持続可能な循環型のまちづくり ・緑化の推進、雨水の活用など、緑と雨水を活かしたまち ・水辺や緑などの自然環境と共生するまち ・多様な動植物の生息に配慮したまち ・自然エネルギーの有効活用など、省資源化に配慮したまち
● 歴史・文化の重視へ ・地域の歴史を大切に、個性豊かなふるさとづくり ・文化を育み、ゆとりと潤いのある生活 ・歴史・文化による多彩な交流	②質・ゆとり・潤いのあるまちづくり ・幸区の貴重な自然環境となっている「加瀬山」周辺の歴史を活かしたまち ・二ヶ領用水などの水辺を活かしたまち ・ミューザ川崎シンフォニーホールを活かした文化の拠点のあるまち
● 少子高齢社会への対応 ・地域による子育て支援 ・高齢者の地域参加と支援整備	③子育て世帯・高齢者が安心できるまちづくり ・安心して子育てできるまち ・高齢者が元気に活動できるまち ・バリアフリーで快適なまち
● 防災・防犯対策の充実へ ・地球温暖化による異常気象が多発し、都市災害が増加 ・大地震による被害の軽減に向けて ・災害弱者への対応	④安心・安全なまちづくり ・防災対策の整備したまち ・地域力で安心で安全なまち
● 価値観の多様化 ・多様な人々の地域参加と交流 ・住民参加の仕組みづくり	⑤多様な人が参加するまちづくり ・個性豊かな活気のあるまち ・多様な区民の参加で魅力あるまち
● 新しい時代ニーズをとらえた産業へ ・省エネルギー等、温室効果ガス削減に向けた取組 ・全地球測位システム(GPS)等、情報技術分野 ・廃棄物を出さない資源循環型産業	⑥産業資源を活かしたまちづくり ・「新川崎・創造のもり」計画によるものづくり・研究開発機能が充実したまち ・最先端技術を世界に発信するまち

1 「環境と共に生きる」まちづくり

・多摩川などの河川や加瀬山の緑など、今ある自然環境資源を保全し、有効に活用するとともに、二ヶ領用水の水辺や公園・緑地、緑道の緑を充実させ、水と緑を育むまちをめざします。
・ヒートアイランド現象や地球温暖化などの地球環境問題に対して、環境に配慮した持続可能な循環型のまちをめざします。

2 幸区の特性を活かした「地域社会と共に生きる」まちづくり

・縄文・弥生時代からの歴史が残る加瀬山や「音楽のまち・かわさき」の拠点施設であるミューザ川崎シンフォニーホールなどの立地を活かしたまちをめざします。
・地域のまちづくり活動をより活発にするため、誰もが集える生活空間があるまちをめざします。
・地域の中で安心して子育てができるまちをめざします。

3 コミュニティを大切にした「人と人が共に生きる」まちづくり

・少子高齢社会が進行する中で、地域の活力を向上させながら、子どもから高齢者までが気軽に集える仕組みを創出し、地区コミュニティを基盤とした、人と人が共に生きるまちをめざします。

4 安全で安心して暮らせるまちづくり

・地区コミュニティを基盤として、まちの防災性の向上を図り、誰もが安全で安心して暮らせるまちをめざします。
・バリアフリーに配慮して、高齢者や障害者を始め、誰もが快適に暮らせるまちをめざします。

■幸区の変遷

はるか昔の幸区

高度成長期の幸区

現在の幸区

5 多様な交流、にぎわいのあるまちづくり

・地域の多様な人々の交流により、活気のあるまちをめざします。
・川崎駅西口周辺地区を中心に、広域的な商業や産業の拠点としての充実を図り、にぎわいのあるまちをめざします。

6 新しい産業を創造するまちづくり

・新川崎駅周辺地区の K^2（ケイスクエア）タウンキャンパスや KBIC（かわさき新産業創造センター）を核に、新しいものづくり・研究開発型産業を育成し、最先端技術を世界に発信するまちをめざします。